

こうほくりよく はっけん つうしん

# 港北力発見★通信

©横浜市港北区ミズキー

Vol.12

港北区の元気のもと発見!

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町26-1 Tel.045-540-2247 Fax.045-540-2245  
 地域力発見プロジェクト事務局：港北区地域振興課地域力推進担当 福祉保健課事業企画担当  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/sinkou/kouhokuryoku/>



## ■太尾宮前地域まちづくり運営協議会 昼間にグラッ!ときたらどうする?!

多くの人が働きに出ている昼間、もし地震がきたら、残っている人たちでどう対処したらいいのか。そんな課題から平日の昼間に防災訓練を行いました。



11月14日(木)10:00~12:00、いっとき避難場所になっている大型スーパーの駐車場に、ヘルメットや防災頭巾など思い思いの服装で参集。班ごとに安否確認の受付を済ませ、全員の訓練が始まりました。



太尾宮前地域は、大倉山駅前から新羽橋に向かうバス通り沿いの地域で、51班、約800世帯が住んでいます。また、バス通り沿いには保育所や幼稚園も多く点在し、女性だけ、幼児が多い、要援護者の救出など問題山積の現状下での実現可能な方法をみんなで確認しました。

この日の参加は、町内会をはじめとして企業、保育園6園から、一般107人、幼児131人が集まり、消防署の指導のもと2グループに分かれ煙体験、心肺蘇生訓練、初期消火訓練などを体験しました。

## 地域が主役「ひっとプラン港北」

「ひっとプラン港北」(港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画)は、「ひろがる」「つながる」「とどく」をキーワードに、地域と行政、事業所等が協力して「誰もが安心して暮らせるまち港北」を目指す計画です。地域の方々が行っている見守り活動など支援の必要な人に支援の手をとどける取組や、地域の活動により多くの人に参加していただくための、情報をとどける取組をご紹介します。

今回は「とどく」  
取組を  
紹介するよ。



### 支援の手がとどく

#### あんしんカードの配布(大曽根地区)

自宅や外出先で事故にあったり急病になったりしたとき、必要な情報を素早く他の人に伝えられるよう、大曽根の全世帯に「あんしんカード」を配布しています。カードは名刺サイズの携帯版と、冷蔵庫に貼っておく自宅掲示版を用意しており、氏名や住所の他、緊急連絡先やかかりつけ医の情報なども記載できるようになっています。かけつけた救急隊員等がすぐに対応できるように、近隣の消防署や警察署にもこの「あんしんカード」のことを知らせてあります。少しでも多くの方にカードを活用していただきたいと願っています。



〈携帯版〉

〈自宅掲示版〉

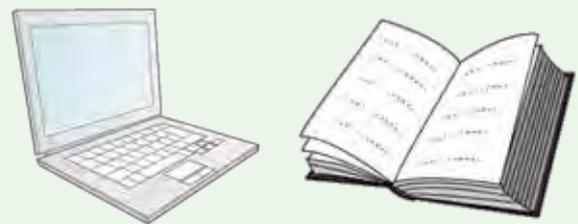
### 情報がとどく

#### ☆ホームページ

「わがまち篠原」「わが町師岡」「箕輪町.com」「下田町自治会」「高田地区社会福祉協議会」・・・自分のまちのホームページを探してみましょう

#### ☆広報紙・イベントカレンダー

回覧や掲示物をチェック!まちの情報が満載です



### 災害時要援護者対策の取組(高田地区)

高田地区では、8つの自治会町内会ごとに様々な災害時要援護者対策を行っています。災害時に地域で援助が必要な方の情報把握をはじめ、普段から定期的に見守りを行う体制づくりには自治会町内会と民生委員との連携が欠かせません。地区社協の機関誌「広報たかた・翔」にも防災に関する取組報告を掲載することで、地域住民の皆さんの防災意識の向上を目指しています。災害時のみならず、日ごろから住民同士のコミュニケーションにより活発な地域づくりをすすめていきます。



### チームささえあい♥(師岡地区)

災害時に援助が必要な方を支援するためには、「日頃から顔のみえるおつきあい大切」という思いから、師岡地区では4つある町内会ごとに支援チームを結成し、見守り活動を行っています。見守りの方法やメンバー構成は町会によってそれぞれですが、チーム名は「チーム〔町会名〕ささえあい♥」と統一しています。担い手の不足など課題はありますが、町内会役員や民生委員だけでなく、地域の大勢の方と一緒に、安心安全なまちづくりのためにできるところから少しずつ取り組んでいきたいと思ひます。

「ひっとプラン港北」に関する問合せ先

港北区福祉保健センター 福祉保健課 事業企画担当

☎ 540-2360 ☎ 540-2368 ✉ ko-fukuhoplan@city.yokohama.jp

HP <http://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/fukuho/fukuhoikeikaku.html>

## ■ 菊名こども学習会～地域の人との異世代交流!お互いにふれあいを求めて～



部屋に入ると、そこは楽しい学習の場。

小学1年生から中学3年生まで、いろいろな学年の子ども達が思い思いの勉強に取り組み、ボランティアの先生(社会人や学生)がその子にあった関わりをしています。

いろいろな偶然が重なり、現在の活動に繋がっています。先の震災後、何かしたいと思っていたところに、被災した東北地方で行われていた学習支援の取組を偶然目にしたことが、ここで学習会を立ち上げるきっかけとなりました。

また、菊名コミュニティハウスで部屋を貸してもらえたことになった偶然も大きなきっかけでした。

活動を始めたころは子ども達が全くこなくて、やめてしまおうかとも思いました。しかし、子どもや親のネットワークのおかげで少しずつ出席してくれる子どもも増え、現在は会議室がいっぱいになってしまうこともあります。

ここは地域の異世代交流の場になっていると思います。子ども達は親でも先生でも友達でもない“人”との関わりを求めて、ボランティアで関わって



いる人も子ども達とのふれあいを求めて、集まっている部分もあるのではないかと感じています。

これからは他の市民活動などと横のつながりを作って、活動が広がって行くことを目指しています。

## 平成26年度の募集を行います～地域のチカラ応援事業補助金～

港北区では、地域の課題解決や地域住民のために自主的・主体的に行う団体の活動を応援します。団体の活動実績や事業内容によって4つのコースを設けています。

- 募集期間 平成26年2月21日(金)～3月20日(木)  
募集要項は2月17日(月)から区役所等で配布

### 1. スタートアップコース〈補助限度額5万円〉

対象: 設立初期あるいはこれから活動を始めようとする団体で、地域の課題解決や住民のために行う非営利の事業

### 2. チャレンジコース〈補助限度額30万円〉

対象: 活動実績がある団体で、「福祉保健」「文化芸術」「地域まちづくり」をテーマとした非営利の事業

### 3. 地域元気づくりコース〈補助限度額25万円〉

対象: 身近な地域の課題解決にむけて、自治会町内会を含む2つ以上の団体が連携して取り組む非営利事業

### 4. パートナースhipコース

〈補助金交付はありませんが区の後援名義の使用ができます〉

対象: 区内で区民を対象とする非営利の事業

※ 審査の結果、補助金が不交付又は減額される場合があります。

※ 詳しくは2月17日から配布予定の募集要項をご覧ください。

### ○ 公開提案会

チャレンジコースに応募した事業は、一般公開の場で企画内容の提案を行っていただきます。

〈開催日時〉平成26年4月19日(土)10時～、  
港北区役所4階1・2号会議室

### ○ 問合せ・相談先

港北区地域振興課地域力推進担当

電話: 540-2247

Eメール: ko-chikara@city.yokohama.jp

※平成26年度の本事業は、横浜市会での平成26年度予算の成立が前提となります。このため、今後、内容等が変更することもありますので予めご了承ください。



## ■畑っ子ワールド新吉田～みんなで収穫!運びきれないほどの野菜～

私たちは幼稚園児から小学生と保護者を対象に、畑作業を通じて収穫の喜びや自然環境との付き合い方を感じてもらえるような活動しています。

今年の夏は例年になく高温少雨のため、ジャガイモやサツマイモの育成を心配しましたが、収穫間近になり恵みの雨。作柄を持ち直し、例年通りの収穫となりました。

逆に9月の大根や白菜の種まき時は雨が多く、10月に植えたブロッコリーは台風や強風で苗の植え直しをするなど、天候に振り回された一年でした。



12月に大根や白菜の収穫をみんなで楽しむことができました。丸々太った重い大根は一回では運びきれないほど。子供たちは土の中の虫、白菜についた虫の違いを観察したり、雑草を抜いたり、大きな霜柱に歓喜したり・・・野菜だけでなく、「自然を体験する」という“大きな収穫”を得ることができました。



## ■大倉山おへそ～大倉山の新しい拠点づくり、しています～

私たちは大倉山エルム通り商店会と一緒に、地域住民が集まり交流できる拠点づくりを行っています。世代や居住地を超えたつながりを作るために「何をしかけたらいいか」「どのような場所がいいか」といったことを考えているところです。

子育て中のママたちは地域について、大学生は子ども達に地域に興味を持ってもらうにはどうしたらよいかについて、それぞれの立場でワークショップに参加してもらい意見交換しました。意見交換により新しいアイデアや刺激が生まれます。地域の皆さんの交流が活発になるような取組を増やしていく予定です。

「街づくり」というと難しいと思う方もいらっしゃると思いますが、私たちが情報収集・発信、イベント企画、講座開催などを続けていくことで、たくさんの方々に自分の街に興味を持ってもらえたら、と思っています。

